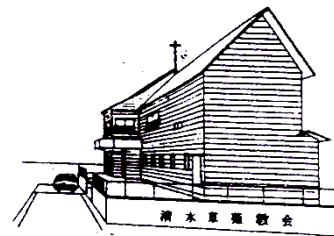


## 《来週の聖書から》

教会の伝統ということについてみ言葉から学びましょう。習慣・ならわし、といえるようなもの沢山あるように思います。ある伝統は聖書的でもあり、またある事柄は、大切な伝統のように教えられたりするものの、実はそれほどの意味もなかったりします。教会の慣わしというものが、実に短い時間に作られることに驚くこともあります。講壇の花や、洗礼式の持ち方など、その教会が作り上げてきた素晴らしさがいっぱいあります。教会に、“聖書によらないような伝統が作り上げられるのはよくない”と、ある牧師が考えて、いつも違う方法を取り入れたとしても、“毎回違うのが伝統”という伝統が出来上がってしまうでしょう。また“何時もと同じ”ということも大切なことで、同じ式順で、同じ祈りがささげられるのも、本当に心が安らかになる時があります。大切なことは、“今行っているこのことがどんな意味をもっているのか”ということに心をとめることでしょう。更に、この“慣わし”というものは教えられなければ、その意味の素晴らしさと大切さが分からないということに気付かなければなりません。ユダヤ人は今も“過ぎ越しの祭り”を行っていますが、聖書は“その意味が、祭りが繰り返される間、毎年”伝えられなければならないと教えています。“こうすることになっているからこうするのだ”ということのみ言葉に見つけることはできません。“あなたがたに良い生活が与えられた時、それが主から与えられたものであることを忘れてはならない”と6：12で語られます。そのことを忘れたら、自分が自力で、良い今の生活を獲得したのだと勘違いをするだろう、というのです。“なぜ掟を守らなければならないのですか(すなわち、どんな意味があつて)”と言いたくなるようなことが世の中にはあるように思います。申命記のこの箇所は、子供たち・子孫に、正確に神様の目的と約束と救いとを語り継げなければならないことを教えています。24節をみましょう“そして、主はこのすべての定めを行えと、われわれに命じられた。これはわれわれの神、主を恐れて、われわれが、つねにさいわいであり、また今日のように、主がわれわれを守って命を保たせるためである”とあります。主を恐れなくて他の物を恐れていることはないでしょうか。主によらず、他の物で私たちの命を守っていると思っっていることはないでしょうか。何故私たちは礼拝を守るのでしょうか、何故聖餐式を“悦ばしい”と思うのでしょうか。思い出したいものです。

# 週報

2008年 6月 1日



伝えよう 救い主を  
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

## 清水草薙キリスト教会

教会学校	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈祷会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	<a href="http://kusanagi.church.jp/">http://kusanagi.church.jp/</a>	

T 424-0885

静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail [grace@big.jp](mailto:grace@big.jp)

牧師 村上定幸